

北海道花き振興計画（素案）に係る意見募集について

1 意見の募集概要

(1) 募集方法

道民意見提出手続の意見募集要領に基づき、北海道のホームページ（農政部生産振興局農産振興課ホームページ）に掲載するとともに、次の場所で計画素案及び参考資料を閲覧・配付

- 北海道農政部生産振興局農産振興課（道庁7F）
- 北海道総務部行政局文書課行政情報センター（道庁別館3F）
- 各総合振興局及び各振興局（石狩振興局を除く）の行政情報コーナー

(2) 募集期間

令和2年(2020年)11月25日（水）から令和2年(2020年)12月25日（金）まで

(3) 応募件数

提出者（団体）数：4団体

意見数：20件

【対応：A（意見を受けて案を修正）】 5件

【対応：B（案と意見の趣旨が同様）】 6件

【対応：C（案を修正しないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの）】 3件

【対応：D（案に取り入れなかったもの）】 6件

【対応：E（案の内容についての質問等）】 0件

2 素案に対する意見一覧

	項目	意見の概要
1	前文	「計画期間は、『北海道農業・農村振興推進計画』との整合性を考慮して、 <u>令和7年度までの5か年間</u> 」、とあるが、表紙には <u>令和12年度目標</u> と記載されており、整合性が明示されていない。 【対応：A（意見を受けて案を修正）】
2	第1 花き産業及び花きの文化の振興に関する方針	平成28年3月策定の前計画(平成37年目標)との整合性が記載されていないことから、今まで続いてきた計画がどのように引き継がれてきたか不明。また、 <u>これまでの計画をどのように評価してきたのか、どれだけの予算を執行し、どの程度の成果が得られたのか</u> を明確にし、振返りを行った上で、新しい計画を策定すべきと考える。 【対応：D（案に取り入れなかったもの）】

	項 目	意見の概要
3	第1 「1 本道の花きをめぐ る現状と課題」 (1) 現状	<p>出荷額が維持されていても、農家戸数の減少は<u>品目・品種の減少</u>につながり、本来季節によって変化するものが<u>一年中同じ品目・品種が出荷されるようになってきている</u>。</p> <p>また、切り花は農協単位で出荷されるが、<u>鉢物・苗ものは個人出荷が多く、卸売市場による軒先集荷に頼っているため融通が利かず生産減少に繋がっている</u>。</p> <p>【対応：C（案を修正しないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの）】</p>
4	第1 「1」 (1) 現状	<p>昭和40年以降の水田転作を契機に広まった花き生産であるが、<u>近年特に本州夏季の猛暑により北海道産の花きが重要視されている</u>。</p> <p>また、本州に比べ<u>農薬の量が少なく、環境にやさしい花き生産</u>である。</p> <p>【対応：C（案を修正しないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの）】</p>
5	第1 「1」 (2) 課題	<p>花き生産に<u>機械化が困難との箇所があるが、海外では機械化が進んでおり、認識が甘い</u>。</p> <p>【対応：D（案に取り入れなかったもの）】</p>
6	第1 「1」 (2) 課題	<p>航空便が減った理由は運賃高騰もあるが、<u>温度管理できる航空貨物の施設が整備されていないため品質管理ができないことも大きい</u>。また <u>荷下ろししたものを輸送するトラック便が特に冬季間タイムリーではない</u>。</p> <p>【対応：C（案を修正しないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの）】</p>
7	第1 「1」 (2) 課題	<p>冠婚葬祭の業務需要から日常使いへのシフトとあるが、これまで日常使いがあったから業務需要が増加していったので、<u>この記述に疑問を呈する</u>。</p> <p>【対応：A（意見を受けて案を修正）】</p>
8	第1 「1」 (2) 課題	<p>関係団体は<u>物日を創出することで日常使いに結びつける方法を模索</u>している。記述通り自分のための消費が理想ではあるが、花の文化創造を考えるなら、小売店を支えるギフト需要、物日の創造が重要。道内での販売は、<u>全国に比べ量販店のシェアが少ないことから、札幌を中心とした大都市とそうでない地域を区分して考える必要がある</u>。</p> <p>また、東京で花きの消費者年齢が低下しているのは、駅や自宅から歩いて行けるところにおしゃれな花屋さんがあるから。<u>車社会の北海道とは事情が異なる</u>。</p> <p>【対応：B（案と意見の趣旨が同様）】</p>

	項 目	意見の概要
9	第1 「2 花き産業及び花きの文化の振興の基本的な考え方」 (1) 高品質な花きの安定生産と経営安定	花きの安定生産が必要であえて「 <u>高品質な</u> 」とつけるべきなのか。 <u>品質の悪いものは安定生産安定経営できない。</u> 【対応：D（案に取り入れなかったもの）】
10	第1 花き産業及び花きの文化の振興に関する方針 「2」 (2) 日持ち性を向上させる流通の高度化と輸送の効率化	<u>日持ち性を向上させるとの枕詞は不要。</u> 流通の高度化と輸送の効率化により、消費者の手に届いてからの日持ちの向上につながる。 【対応：D（案に取り入れなかったもの）】
11	第1 「2」 (2) 日持ち性を向上させる流通の高度化と輸送の効率化	<u>植物の流通センターの役割を果たす施設を整備し、さらに台車を使用すれば、省力化や品質の維持、ドライバー不足への対応や、時間の短縮につながる。</u> <u>植物輸送に関わる企業が連携すれば効率が上がり、さらに各店舗で処分しているトレー（鉢を入れる容器）の回収、プラスチックの循環につながる。</u> ただし、道央に流通拠点を整備しても、道南エリアの本州向け流通にメリットがないことが課題。 【対応：B（案と意見の趣旨が同様）】
12	第1 「2」 (3) 道民の道産花きへの理解醸成と活用の促進、花き文化の振興による需要拡大	<u>基本的な考え方に「花き文化の振興」を含める必要はなく、花きへの理解の醸成と活用促進だけでよい。</u> 生け花や盆栽などの伝統の継承や、フラワーアレンジメント、ガーデニングを日常生活に取り入れるのが花きの文化なのか疑問。 【対応：D（案に取り入れなかったもの）】
13	第2 花き産業及び花きの文化の振興に関する方策	<u>具体的な数値・事業費の記載がないことから、5年計画でどういうことが達成されるのかが明確でない。</u> 花きの生産だけでなく、 <u>花きの文化の振興等についても記載がある</u> ことから、「第3 花きの生産目標」という数値目標だけでなく、それ以外の <u>数値目標も記載すべき。</u> 【対応：D（案に取り入れなかったもの）】

	項 目	意見の概要
14	第2 「1 高品質な花きの安定生産と経営安定」	北海道は寒冷地で、 <u>一年の半分は施設加温による促成栽培</u> で、物日などの適期に高単価での販売を目指している。 <u>燃料は灯油が主流だが、天然ガス、水素燃料、ヒートポンプ、バイオマスなど代替エネルギーがあり、燃料価格、設備コストや熱効率、環境への影響などさまざまな観点から検討する必要がある。</u> 【対応：A（意見を受けて案を修正）】
15	第2 「1 高品質な花きの安定生産と経営安定」	現在使用している鉢やポットはプラスチック製であるが、環境に配慮した <u>生分解性資材の導入も必要。</u> 【対応：A（意見を受けて案を修正）】
16	第2 「2 流通の高度化」	地球温暖化により、北海道の切り花の地位は高くなっていく可能性が高いが、 <u>鮮度保持も重要となる。鮮度は消費者に渡るまでの損耗を、生産、流通、消費が一体となって食い止めて行くことであり、科学的な取り組みの情報収集が非常に重要。</u> 【対応：B（案と意見の趣旨が同様）】
17	第2 「2 流通の高度化」	輸出については国の施策により支援されているが、花の輸出振興に向けては、 <u>輸出関税や通関・検疫など他国の制度への働きかけが重要。</u> 特に近隣諸国には、政治的な働きかけも必要。 【対応：B（案と意見の趣旨が同様）】
18	第2 「3 試験研究及び技術普及の推進」	北海道の花きが年間5ヵ月しか出荷されない中、農家経営の安定につながる技術開発が最も重要であり、 <u>花・野菜技術センター等の拡充が必要。</u> 【対応：B（案と意見の趣旨が同様）】
19	第2 「4 道産花きの需要の拡大」	道産花きの需要の確保について、 <u>花はその他の生鮮品と異なり、産地表示、単体販売が少ない。消費者が道産花きを認識できる販売を小売店に呼びかける必要がある。</u> 【対応：B（案と意見の趣旨が同様）】
20	第2 「5 花きの文化の振興」	花き文化は <u>生け花ではなく、風習に基づき、節々の移り変わり、二十四節気</u> に季節や行事の花をめぐること。 【対応：A（意見を受けて案を修正）】